

S u i c a対応の次世代ロッカーを開発 ～ キーレス&キャッシュレス運用を実現 ～

【概 略】

この度弊社は、ターミナル駅構内などで利用するコインロッカーの新たなタイプとして、近年急激に普及するS u i c aで利用料金が支払え、しかも、そのS u i c aを鍵として利用できる次世代の多能式ターミナルロッカー「L T Hシリーズ」をラインナップいたしました。

コインロッカーは、日本国内では、約40年前から普及しはじめ、今日では手荷物を一時的に保管するのには無くてはならないもので、現在全国の駅構内などに約4万台が設置され、旅行者や出張者などに重宝されております。

当初は、コインロッカーのオペレーターが深夜12時に手動で日送りを行なうなど、運用は人手に頼っておりました。その後日送りが自動化され、さらにはスキーやゴルフ道具などの大型手荷物も収納できるタイプが登場し、利用頻度が高まっていきました。また、最近ではコインロッカーの扉面をデザイン広告としても活用され、通行人の目を楽しませています。

一方、鉄道では、改札ゲートにタッチするだけで、乗車料金が自動精算できる「S u i c a」¹をはじめとしたICカードの普及が進み、駅構内などでの買い物や飲食の支払にも電子マネーとして利用できる店舗が、急激に増加しております。

このような背景から、コインロッカーにおける電子マネーの使用ニーズが高まっております。

この度開発の「L T Hシリーズ」は、S u i c aはもちろん現金も使える、決済の多様化時代にマッチした最新の多能式ターミナルロッカーです。現金の場合は、100円硬貨以外に、500円・50円・10円硬貨、さらには千円紙幣も使い、つり銭も払い出せるため、利用者は煩わしい両替の必要もなく手軽にご利用いただけます。

「L T Hシリーズ」は、従来のコインロッカーとは異なり、扉毎に硬貨投入口や鍵は無く、空き状況を確認するLEDと仮施錠レバーを設けたのみで、利用料金の決済や施錠操作などは、全て一箇所で行なう集中制御方式です。

施錠は、扉横の仮施錠レバーを押し下げ、集中操作部にて、S u i c aあるいは現金で決済することで施錠が完了し、利用日時、料金、扉番号などが記載された利用証明書が発行されます。

解錠に用いる鍵は、従来の「ロッカーキー」ではなく、「S u i c a」「鍵番号」のいずれかを、コインロッカーの扉を開ける鍵として用いることができます。

このキーレス運用の実現で、コインロッカー内の荷物を二者間で受渡しすることが可能となりました。

加えて、「ロッカーキー」を無くしたことで、「キー」の紛失によるトラブルなども解消され、利用者にも安心してお使いいただけます。また、管理者による錠ユニット交換も不要となります。

さらに、利用者を撮影するカメラの搭載も可能で、不正行為の抑止や万一解錠できない時の本人確認にも活用できます。

「LTHシリーズ」は、集中操作部1台につき、最大10台（1台あたり最大6扉）のロッカー部の接続が可能です。加えて、集中操作部同士は親子接続機能により、親1台に対して子5台まで接続できるため、一ヶ所で最大で60台のコインロッカーの売上集計データの管理ができます。

また、時間帯別の売上集計データなどを把握することで、利用が少ない日や時間帯には、利用料金を引き下げるなど、自由な料金設定も可能です。

さらに「LTHシリーズ」は、従来のコインロッカーの機能を越えた、宅配便の受取や私書箱用途など新たなビジネスへの展開も提唱し、現市場以外にも事業拡大が図れるものと確信しています。

1:「Suica」は、東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。

【主な特長】

1. キーレス運用による鍵の紛失を防止

従来の「ロッカーキー」の代わりに用いる鍵として、集中操作部の表示パネルからSuica、鍵番号の何れかを選択。Suicaはカード読取部にSuicaをタッチすることで解錠、鍵番号は発行された利用証明書に記載された鍵番号の数字を集中操作部に表示されるテンキーで入力することで解錠できます。

2. 荷物の受渡しを実現、運用方法が拡張

二者間での荷物の受渡しが可能となり、宅配便の受け取りなど新たなビジネスの拡がりも期待できます。

3. 多彩な料金支払方法で、利用者層の拡大

従来、コインロッカーは100円硬貨のみの利用でしたが、街角に設置の各種自動販機同様500円、100円、50円、10円硬貨さらには千円紙幣も使え、釣銭も払い出せる機能に加えて、Suicaも使えるため、キャッシュレス化が進む現在に幅広い層にご利用いただける最新の機能を備えています。

4. 細かな料金設定が可能

Suicaおよび10円硬貨が使用できることで、時間貸しや時間帯別料金設定など10円単位の細かな価格設定ができ、サービスの幅を広げます。

5. 親子接続でデータ一元管理を実現

集中操作部を最大6台まで親子接続でき、一箇所で売上集計データを一元管理することで、管理者は売上集計業務の作業負担を軽減できます。

6. 多彩な言語表示

集中操作部の画面表示は、日本語、英語、中国語、韓国語、台湾語を選択でき、外国人の方々にも安心してご利用いただけます。